

Where there is a will, there is a way.

愛知県 中学校（英語）教諭（120期 外国語文化学科）

大学1年生の4月、私は一つの夢と不安を抱えて國學院大學に入学をした。中学時代から教員を目指していた私は、“教職”で有名な國學院大學に進学することを決めました。しかし、私がなりたいのは、英語の教員・・・。国語や社会と比べたら、教員になる学生はうんと少ない・・・。自分が、本当に教員になれるのだろうか。不安でした。

でも、毎年、何人か外文から教員になる先輩方の存在を知り、可能性が0ではないのだから、やってみる価値はある！やれるとこまでやってみよう！むしろ、数少ない外文卒業の教員に私になる！と、意気込み、大学生活をスタートしました。

「教員になるためには、何が必要か。」大学4年間は、教員になるための準備期間だと考え、今しかできないことをリストアップしていきました。塾講師、地元の教員養成塾、ロンドンへ語学留学、海外旅行、ボランティア、英会話、サークル、様々なバイト。大学では、英語・中国語の教員免許、日本語教員養成課程の取得と、何一つ無駄だと思うものはありません。リストアップしたことほとんどすべてを達成し、今まで経験したこと全てが勉強で、私の糧となっています。

大学3年生になって、教員採用試験への具体的な対策、勉強法がわからず、なかなか勉強が進まずにいたので、同じ夢を持つ仲間と勉強し、自身の勉強へのモチベーションを高めていこうと考え、教職ゼミへの参加を決意しました。春から夏にかけて、私は、教職教養ばかり勉強していました。肝心の専門教養や小論文の勉強を怠りがしろにしていました。その結果、最後まで足を引っ張ったのが、専門教養でした。今年、唯一の英語科として、教職を志す後輩たちに伝えたいことといえば、「とにかく専門性を高める」ことです。

次には、私の専門教養の具体的な勉強方法についてです。

- ・1日長文を2～4題（高校レベルのものからはじめる）
- ・解いた長文を5回音読+付属のCDでディクテーションを5回
- ・大学受験向けの文法テキストを1日10ページ
- ・単語1日200個

これらの1日のノルマに加え、英語科における4技能別で、

・**Listening** は、TOEIC750点、英検準1級を目標にしたテキストを購入し、リスニング練習をしました。問題を解いた後は、問題で読み上げられた文章を見ながら、CDを聞き直し、耳から聞いた単語と文章中の単語を一致させました。それをオーディオプレーヤーに入れ、電車の中や、図書館、学校、いつでも英文を聞けるようにしました。

・**Speaking** は12月から週に1回、マンツーマンレッスンで地元の英会話教室に通いました。2月までは英語で自分の意見や説明ができるように、また、教育関係の単語や慣用表現を身につけるために教育に関する英字新聞を使って先生とディスカッションを行いました。3月～8月にかけては実技試験の面接練習を行いました。質問事項は、受験先やそれ以外の受験地の二次試験個人面接の質問事項を使って考えました。複数の先生に文章化した答えを添削していただき、印象や表現について、意見を取り入れながら、対策していきました。

・**Reading** は、復習に多くの時間を充てました。理解の難しい長文に関しては、全文和訳をしました。

・**Writing** は、愛知県で出題される英作文の対策として、過去問の模範解答に、自分の経験や考えを文章化したものを当てはめ、文書を作りました。小論文と同様に複数の論題で、いくつかパターンを用意しました。当日出題された英作文の題が、多く準備していた題の中の1つと類似していたため、あわてることなく、試験に臨むことができました。

を組み合わせ、毎日勉強しました。

しかし、私が専門教養の勉強の中で、これが合格の決め手だと考えるものは、語彙力です。どの技能においても、共通に語彙力は欠かせません。

私は、夏の専門教科ゼミから、授業で扱ったテキストの意味のわからなかった単語を全てA6のノートに書き出していきました。日頃、読んでいる英字新聞や洋書、大学の授業や採用試験の過去問やテキストと、ありとあらゆる場面で出てきた新出単語を書き出していきました。そして、これらを効率よく勉強できるようにアルファベット順に再編しました。この勉強法は、今でも継続して行っています。

もっと具体的な勉強方法を紹介したいところですが、人の勉強方法を無理に真似するよりも、自分に合った勉強のほうが、効率良いですし、自分の勉強方法を模索することも大きな学びとなるので、いろいろな勉強方法を試してみてください。

私が、勉強していて、なかなか勉強が進まず、不安な気持ちでいっぱいになったときにしたことは、疲れ果てるまで泣くことでした。もがきにもがき、悩みに悩み、涙が枯れるまで泣く。どれも、今しかできないことです。しかし、どんなことがあっても、「教員になりたい」という意志が揺らぐことも、消えてしまうこともないと思います。私も、入学時の不安や実際に採用試験の勉強をし始めると、不安ばかりが大きくなっていきました。でも、どんなにその不安が大きくても、教員になりたいという意志は、消えることはありませんでした。また、その不安を少しずつ解消していくうちに、この意志はさらに強固なものへとなっていました。

だから、Where there is a will, there is a way. 自分の意志を、夢を、信じて進んでほしいです。